

以下の通り、当該書籍の内容を訂正していただくよう、お願い申し上げます。  
謹んでお詫び申し上げますとともに、ご訂正のうえご指導くださいますようお願い申し上げます。

2023.7

ページ	箇所	誤	正
184	写真5 解説 1～19行目	<p><b>写真5 ドイツ帝国の成立</b> 普仏戦争中のヴェルサイユ宮殿鏡の間で行われたドイツ皇帝の戴冠式の絵は、白い軍服で式辞を読み上げるビスマルクとサーベルをかかえて万歳を連呼する将校団に対して、壇上にいる諸王および諸侯の表情が皆どことなくさえない。プロイセン国王を皇帝に推挙するために集められたザクセン王やバイエルン王、諸侯たちが嬉しそうにしていたらおかしいのはわかるが、皇帝となる中央の白い髭をたくわえたプロイセン王までさほど嬉しそうな顔ではない。これには理由があって、プロイセン王は、ドイツ皇帝 (Deutscher Kaiser) という呼称はプロイセン王国を吸収したようで嫌なので「ドイツラントの皇帝 (Kaiser von Deutschland)」に替えろと前日から言い出していた。ドイツ皇帝の呼称ですでに式典の準備を終えていたビスマルクは、今更替えられないということで何とか説得したが、戴冠式に臨んだ新皇帝ヴィルヘルム1世は、泣きたい気分だと言っていたのである。</p>	<p><b>写真5 ドイツ帝国の成立</b> ドイツ皇帝の即位式は、普仏戦争の最中にヴェルサイユ宮殿「鏡の間」で行われた。絵の右側に描かれた、サーベルをかかえて万歳を叫ぶ将校団は、ドイツ統一を喜ぶ民衆や、ドイツ帝国の軍国主義的性格をも想起させる。一方、壇上の領邦君主たちは、バーデン大公が手を挙げて万歳の音頭をとっているものの、さほどの盛り上がりを見せていない。そもそも領邦君主たちは、ビスマルク (絵の中央、白い軍服姿で強調) が主導するプロイセン優位の統一に前向きではなく、南ドイツ諸邦は普仏戦争でオーストリア側についていた経緯もある。普仏戦争で人々のナショナリズムが高揚する中、ビスマルクが南ドイツ諸邦の引き入れ工作を進め、ドイツ帝国は諸邦の君主がプロイセン王を皇帝に推戴する形をとって成立する。しかし、ヴィルヘルム1世も即位に抵抗し、式典の前日に「ドイツ皇帝 (Deutscher Kaiser)」という呼称はプロイセン王国を吸収したようで嫌なので「ドイツラントの皇帝 (Kaiser von Deutschland)」に替えろと言いつつ出さずほどであった。すでに準備を終えていたビスマルクに説得されたヴィルヘルム1世は、泣きたい気分だと述べたという。</p>